

大阪情報コンピュータ専門学校 授業シラバス (2022年度)

専門分野区分	デザイン・作画技法	科目名	デッサン I				科目コード	D0490A1		
配当期	前期	授業実施形態	通常				単位数	4 単位		
担当教員名	畑 卓也	履修グループ	1J(GD/MD/SD/SL)				授業方法	演習		
実務経験の内容	芸術大学美術学科絵画専攻を卒業後現在までの二十数年間に、絵画・版画・造形などの作品制作と、イラストやデザインなどの仕事を通して得た経験を活かして、人間の視覚や知覚のしくみなどにも触れながら、基礎となるデッサンスケッチ表現技術習得の指導を行う									
学習一般目標	観察力と描写力や表現力の習得 三次元空間の把握と表現。 色味や質感の表現、空間の見せ方などを含め、各分野に応じた表現技術の習得。									
授業の概要および学習上の助言	受け取る情報の大半は視覚を通して取り込まれる。 物を観る眼(モノを把握し捉える能力・観察力)を身につけることで、必然的に描写力や表現力が身についていきます。観ることを忘れずに取り組んで下さい。積み重ねることではか身につけません。									
教科書および参考書	『静物デッサン テクニック』誠文堂新光社 『アーティストのための美術解剖学』マル社 その他、必要に応じてプリント配布。									
履修に必要な予備知識や技能	自分自身が、根気よく集中して諦めず取り組むための術や方法を、自分でよく理解し身につけておく事									
使用機器	各自用意するものとして、鉛筆(2H~4B)、練消しゴム、カッターナイフ、デッサンスケール、クリップ 水彩道具一式(水彩絵の具、筆、パレット。水入れ、雑巾) ※一括購入分含む									
使用ソフト										
学習到達目標	学部DP(番号表記)	学生が到達すべき行動目標								
	1	空間表現の基本、遠近法の理解と把握し、陰影法により立体感を表現できる。								
	1	鉛筆を使った陰影表現により、立体感を表現できる。								
	1	骨格や構造を理解し、人物表現できる								
	1	基本形体を応用して形を捉え、より複雑なものもしっかり表現できる								
	5	講義と実習において、意欲を持って取り組むことができる								
達成度評価	評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	学部DP	1.知識・理解					80			80
		2.思考・判断								
		3.態度								
		4.技能・表現								
		5.関心・意欲							20	20
総合評価割合						80		20	100	
評価の要点										
評価方法	評価の実施方法と注意点									

試験	
小テスト	
レポート	
成果発表(口頭・実技)	
作品	授業内制作作品と授業外制作作品(宿題)に対する評価
ポートフォリオ	
その他	授業に対する姿勢や課題に対する取り組み、出席状況

授業明細表

授業回数	学習内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)
第1回	デッサンとは。視覚と知覚について。 用具道具の使い方。遠近法、線透視法について 「グレースケール」	講義・実習	教科書「静物デッサン・テクニク」P13～第1章デッサンを始める準備、P25～第2章デッサンの基本、P32
第2回	「立方体」線透視法の理解 形態と明暗 視点と対象の関係をしっかりと把握した上で、形をとらえる。	講義・実習	教科書「静物デッサン・テクニク」P25～第2章デッサンの基本、P48
第3回	「立方体に準ずるモチーフ」 箱、ブロック、枡など	講義・実習	
第4回	「円柱」 形態と明暗 視点と対象の関係をしっかりと把握した上で、形をとらえる。 曲面の調子	講義・実習	教科書「静物デッサン・テクニク」P25～第2章デッサンの基本、P42/43
第5回	「円柱に準ずるモチーフ」 紙管、缶、筒など	講義・実習	
第6回	「球体」 形態と明暗	講義・実習	教科書「静物デッサン・テクニク」P25～第2章デッサンの基本、
第7回	「球体に準ずるモチーフ」 テニスボール、ピンポン玉、ゴムボールなど	講義・実習	
第8回	「静物」 基本的な形の応用で単純化して形をとらえ表現する	講義・実習	
第9回	「静物」2種組モチーフ 相互の位置関係をしっかりと把握し位置づけ表現する	講義・実習	
第10回	「静物」2種組モチーフ	講義・実習	
第11回	「人物スケッチ」 人体骨格の把握と理解。	講義・実習	教科書「アーティストのための美術解剖学」
第12回	「人体」手、足、顔(眼、口) 個々の形を骨格や構造をふまえて表現する。	講義・実習	教科書「アーティストのための美術解剖学」
第13回	「人体」手、足、顔(眼、口) ポーズ、表情によって変化する形をとらえる	講義・実習	教科書「アーティストのための美術解剖学」

第14回	課題解決型授業1回目 自身の手をクロッキー	自宅実習課題	実施期間1期(5/16~5/31)
第15回	課題解決型授業2回目 風景スケッチ(一点透視)	自宅実習課題	実施期間3期(6/16~6/30)